



● Culture



石森章太郎「新装版マンガ日本の歴史9 蒙古襲来と室町幕府の成立」(中公文庫) ©石森プロ 「立正安国論」による日蓮の警告は鎌倉幕府に無視された

「対決主義」後世に影響

日蓮の対決主義は、後世にも大きな影響を与えた。

権力者に改心を迫る「諫曉」をも辞さない姿勢から、室町時代以降、宗門の多くの僧が弾圧された。法華経を信仰しない者には布施をせず、布施も受け入れないという日蓮宗の「不受不施派」は、キリスト教と同様、江戸幕府から信仰を禁止された。

明治時代、還俗した僧侶の田中智学は、法華経による世界統一を

目指し、日蓮主義運動を主導。その影響は血盟団の井上日召や、2・26事件の理論的指導者だった北一輝、満州事変を主導した石原莞爾ら、多くの軍人や右翼に及んだ。また、田中の作った国柱会には石原のほか、詩人の宮沢賢治らも参加した。

現代も霊友会や立正佼成会、創価学会など、日蓮系の新宗教は多くの人の心をつかむ。末木名誉教授は「政治的主張をこれだけ明確



久遠寺本堂。日蓮は晩年を過ごした身延山から多くの手紙を送った一身延山久遠寺提供

に打ち出し、はっきりものを言う仏教者はいなかった。危険なところにあえて立ち入る魅力に感化される人も多い」と説明する。

* 歴史研究が深まるにつれて日本史のトピックは見直されています。「日本史アップデート」では、研究成果を反映した最新説を、広く知られた従来説と比較しながら紹介します。「世界史アップデート」と隔週で掲載の予定です。